

牧之原 榛原ふるさとの森

里山の自然に触れよう!



ここでは、谷津田や棚田などを復元して、湿地特有の林や生き物を観察できるほか、再生の森、アカマツの林、植えたままの林など、様々な森の姿を見ることができます。これが人が関わった里山の自然です。

クヌギ (櫟)

クヌギは岩手県・山形県以南の本州～四国・九州に広く分布するブナ科の落葉高木です。コナラと並んで落葉広葉樹の代表とされ、里山の代表的な樹種として「クヌギ・コナラ林」というように並び称されます。かつては薪炭材としてさかんに利用されました。シイタケのほだ木としても使われます。クヌギの樹液にはカブトムシやクワガタが集まります。

ブナ科
Fagaceae

櫟

クヌギ *QUERCUS ACUTISSIMA*

暖地の山林に普通な落葉高木。花は4～5月。実は翌年の秋、大きなどんぐりになる。シイタケの原木や炭に利用。

マツ科
Pinaceae

赤松

アカマツ *PINUS DENSIFLORA*

樹皮は赤褐色。葉はクロマツに比べて柔らかくで細く、女性的でメマツ（雌松）ともいう。やせ地でもよく育つ。

アカマツ (赤松)

アカマツは、日本のほか朝鮮半島、中国東北部などに広く分布します。クロマツに比べて木肌が赤みを帯びていることからアカマツといわれます。アカマツは、どんなやせ地でも育ち、干ばつにも強いことから「根性の木」として評価されています。800年前の東大寺大仏殿の復興材や、昭和40年の皇居新宮殿「松の間」の内装材にも使われました。ここふるさとの森では、マツクイムシの被害などで県内では少なくなったアカマツの再生に取り組んでいます。

リョウブ科
Clethraceae

令法

リョウブ *CLETHRA BARBINERVIS*

山中に普通な落葉高木。幹の樹皮はよくはげ落ち、跡はなめらかになる。小さな白い花は夏、穂になって立つ。

クサギ (臭木)

日本全国に見られるクサギは、その名の通り葉や枝をちぎったりすると嫌な匂いがすること知られています。しかし、7月から8月に咲く白い花は、ユリに似たとてもいい香りがします。また、花が終わると、紅紫色のガクが反り返って藍色の実をつけます。その姿もまた見事です。ところで、クサギの学名にある *Trichotomum* とは、「三分岐の」という意味で、花序の枝が三分岐することからつけられているそうです。花や枝をよく注意してみると、みごとに三分岐が繰り返されていることが分かります。

リョウブ (令法)

リョウブは北海道南部から九州まで、日本中に分布しています。リョウブの仲間は世界では64種類ほど知られていますが、日本にあるのは1種類のみです。樹皮がはがれやすく、はがれたあとがツルツルしているので、リョウブのことをサルスベリと呼ぶ地方もあるそうです。リョウブは7月ごろ、小さな白い花を穂状につけます。遠くから見ると動物の尻尾のようにも見えます。

クマツツラ科
Verbenaceae

臭木

クサギ *CLERODENDRON TRICHOTOMUM*

名前のとおり枝葉を傷つけるとくさい。夏に白色でよい香りのする花が咲く。果実は藍色。紅紫色のガクがある。

ヤナギ科
Salicaceae

丸葉柳

マルバヤナギ *SALIX CHAENOMELOIDES*

宮城県より南の水湿地に生える落葉高木。葉は長さ5～15cmの広た円形、若葉は帯赤色。別名アカメヤナギ。

マルバヤナギ (丸葉柳)

マルバヤナギは、宮城県より南に生えるヤナギ科の落葉高木です。低地の川岸や水湿地に生育し、樹高は10m～20mほどになります。芽吹いたばかりの若葉が赤いため、別名アカメヤナギとも呼ばれます。名前の通り、葉っぱが比較的丸く、細長い葉がしだれる普通のヤナギ(シダレヤナギ)とは大きく異なります。

ツブラジイ (円ら椎)

ツブラジイはスダジイと同じくブナ科シイノキ属の落葉高木で、主に内陸地域の広葉樹林を代表する樹木とされます。どんぐりの形でスダジイと見分けことができますが、どんぐりのない時期はほとんど見分けがつかないようです。また、スダジイとツブラジイの中間型なども多いようです。

ブナ科
Fagaceae

円ら椎

ツブラジイ *CASTANOPSIS CUSPIDATA*

内陸の常緑広葉樹林を代表する。どんぐりはスダジイに比べて、丸くて小さいが、味はいい。別名コジイ。